

## 外国人留学生から学んだこと

—ユネスコ・ユースフォーラム in 宇都宮 2010 に参加して—

開倫塾

塾長 林 明夫

### 1. はじめに

(1)おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

いくらかは涼しくなってきましたが、まだまだ暑い日が続いていますので、皆様にはお身体に十分注意を払ってお過ごしいただきたいと思います。

(2)さて、民主党は今、どなたが次の代表になるかで盛んに議論をしています。先週もお話しいたしましたが、子ども手当を支給する財源があるのであれば、その一部を使って学校に冷暖房、特に冷房の設備を入れていただきたいと思います。宇都宮市内の学校にはだいぶ入ってきましたが、この北関東のそのほかの小学校・中学校・高校などにはまだまだ全部は入っていません。そのため、暑くて勉強にならないと多くの子どもたちが訴えています。子ども手当も大事かもしれませんが、すべての学校に冷房を設置することもぜひお考えいただきたいと思います。

(3)ところで、2 か月前のことになりますが、2010年7月17日に宇都宮大学の学生会館でユネスコ・ユースフォーラム in 宇都宮 2010 という会合が開かれました。私も参加させていただきましたので、今回はその会合の様子を少し紹介させていただきます。

### 2. 外国人留学生から学んだこと—ユネスコ・ユースフォーラム in 宇都宮 2010 に参加して—

(1)主催は UNESCO (ユネスコ 国際連合教育科学文化機関) の友好団体である宇都宮ユネスコ協会で、企画・運営はその青年部の宇都宮大学ユネスコ研究会が行いました。この宇都宮大学ユネスコ研究会のメンバーの大半は、留学生の方々です。

(2)7月17日の会合の趣旨は、「宇都宮大学の留学生と一緒に楽しい国際交流の時間を共有しましょう」というものでした。朝10時から午後3時30分まで、クイズで知るユネスコ・留学生の自国の文化紹介・留学生を囲んでのグループディスカッションなどを楽しみました。

(3)その中で、私が特にお話したいのは、留学生の皆さんの自国の文化紹介です。モンゴル、中国、ロシア、キルギスからの留学生の方が、それぞれの国の文化を日本語で紹介してくださったのですが、それはすばらしいものでした。

(4)モンゴル国の文化では、男子学生のドリゴーさんが遊牧民の日常生活や特有のジェスチャー、習慣などについてお話をしてくださいました。モンゴルでは「ごめんなさい」「失礼します」という気持ちを表すのに、右手を差し延べて握手をするのだそうです。この習慣は日本に住むようになってもなかなか抜けずに、つつい握手を求めてしまい、相手に驚かれてしまうということです。素晴らしい習慣だと私は思いました。

- (5) また、モンゴルにとって日本はとても近い国で、日本の歌とスピーチの全国コンクールが毎年開催されているそうです。2003年にそのコンクールで金賞を受賞した女子学生のボロルーマさんが、モンゴルの民族衣装を着て「涙そうそう」を歌って下さいました。とても上手で、皆大感激していました。素晴らしさに私も感動しました。
- (6) 中央アジアのキルギス共和国からいらしている女子学生のアセリさんは、1991年に独立したキルギスについて説明して下さいました。多民族国家のキルギスにとっても日本は身近な国ので、キルギス人と日本人は昔は兄弟で、肉の好きな者は中央アジアに残ってキルギス人になり、魚の好きな者は海を渡って日本人になったという伝説もあるそうです。確かに、アセリさんの顔立ちには日本人のそれとよく似ていて、間違えてしまうほどです。日本人にそっくりな方が、キルギスにはたくさんいらっしゃるということです。独立後しばらくの間は、国の経済状況が大変だったそうです。そのような若々しい国から若い留学生が日本にいらして一所懸命勉強している姿は、私たち日本人にとっても非常に大きな励みになると思います。
- (7) ロシア連邦からいらしている女子学生のオリガさんは、シベリア地方の生活について紹介して下さいました。バイカル湖周辺には独特の文化や生活様式をもつ少数民族が暮らしていて、古来の宗教や習慣を守り続けているのだそうです。太陽の光にあたると溶けてしまう淡水魚やゴロミャンカ、バイカル湖の神秘の島テングリー島、保養地のアルシャンのお話や、林業が盛んな針葉樹林のタイガのお話、オリガさんのお父さんも狩りに出かけるという毛皮のお話などを、たくさんの写真を交えながらして下さいました。
- (8) これらのお話をうかがっていると、行ったことも聞いたこともない地域の人々の暮らしが、不思議と身近に感じられ、いつか行ってみたいと思いました。
- (9) 中国からは2人の女子学生がいらっやっていて、内モンゴル自治区と上海についてお話をして下さいました。内モンゴル自治区の漢民族として生まれた女子学生は、モンゴル族や満州族、回教徒など49もの民族が住むモンゴル自治区の文化や生活を、自分のアイデンティティーとして誇らしく紹介して下さいました。また、上海からいらしている女子学生は、上海万博に沸いている上海の様子を非常に詳しく説明して下さいました。

### 3. おわりに

- (1) 栃木県には約1000名の留学生の方々がおみえになっています。ですから、皆さんの身近に留学生の方がいらしたら、どこの国の出身なのか、人々はどのような暮らしをしているのかなどをぜひ聞いていただきたいと思います。そうすると、すばらしい国際交流になり、異文化理解にもなると思います。
- (2) 今日は、宇都宮ユネスコ協会が主催しましたユネスコ・ユースフォーラム in 宇都宮 2010に参加させて頂き考えたこととお話をさせて頂きました。

— 2012年8月20日加筆・訂正、林明夫 —